

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 上津役 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

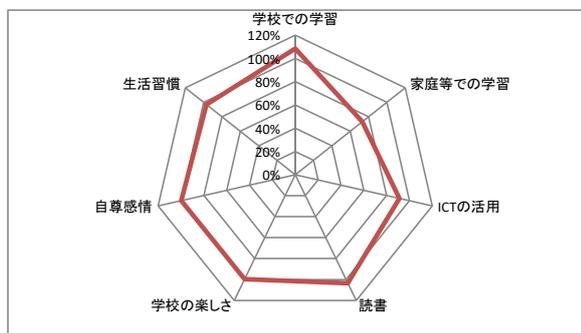
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国・本市と比較し、若干下回っているものの、言葉の特徴や使い方など、話し言葉と書き言葉の違いを正しく理解することができている。また、登場人物の行動や気持ち、相互関係について叙述を基に読み取ることができる。一方、互いの立場や意図をふまえて、自分が考えたことを字数以内等の条件に合わせて書く力が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	問題文の内容を読み取り、設問の中の選択肢の中から正しいものを選ぶ問題	
	努力が必要な問題	話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国・本市と比較し、若干下回っているものの、かけ算やわり算の計算は正確に行うことができる。また、表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して考え、問題を解決することができる。一方、百分率の問題において、立式することはできるものの、日常の具体的な場面に置き換えるなど、日常生活と結んで問題を解決する力が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題	
	努力が必要な問題	示された場面において、数量が変わっても割合は変わらないことを説明する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国・本市と比較し、若干下回っているものの、問題を解決するために、必要な観察の視点をもつなど、道筋を構想することができる。また、昆虫の体のつくりも正確に理解できている。一方、光の性質、天気と気温の変化については、部分的に理解できていないところがある。また、実験や観察で得た結果を分析して解釈する力も課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、道筋を構想し、自分の考えをもつ問題	
	努力が必要な問題	実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えた内容を記述する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校に行くのは楽しい」と回答する児童が多く、国語や算数などの学校で学ぶ教科は、将来に必要なと感じている児童が多い傾向である。</li> <li>・「読書が好き」と回答する児童が多く、「身近に本、手軽に読書」を合言葉に取り組んだ成果が表れている。</li> <li>・「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対して、好意的に回答する児童が多いなど、自尊感情が高まりつつある。</li> <li>・学校の授業以外の学習時間が少ない傾向があり、主体的な学習や、〇時間学習するという目標設定等に基づく「家庭学習の習慣化」が課題である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

「将来に必要」と考えている児童が多い反面、自分の考えを周りに伝えたり、文章で書いたりすることを苦手としている児童が多い。課題解決のため、「自分の考えを表現する5つのポイント」を作成し、全教職員が一丸となって考えたことを表現する力を育てていく。また、話し手の意図をとらえたり、自分の意見と比較したり、日常生活と関連付けたりする学習活動の充実を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

「学校に行くのは楽しい」と回答する児童が多いことや、日常の様子からも学習意欲が高いことが伝わってくる。今後は、家庭学習の大切さや具体的な取り組み方の指導を通して、児童がこれまで以上に家庭で主体的に学習に取り組めるようにする。また、家庭学習の成果等を掲示する取り組みを通して、見通しをもたせた家庭学習の充実を図る。